

宮崎医大・宮崎大学医学部同窓会(篠懸会) 中部 or 東海支部 第一回総会・懇親会顛末

この度、当地区の篠懸会支部を立ち上げ、第一回総会・懇親会を開催しました。

日時は平成 29 年 8 月 26 日(土)、場所は名古屋観光ホテルです。

きっかけは同郷の二期生、永井利正氏と会食していた時、「これから何か老後の楽しみを作りたい」という気持ちが一致したことです。考えを巡らせるうちに名古屋近辺では篠懸会の支部がないことに気づきました。それなら「我々で支部を作り、これをネタにして死ぬ直前まで遊んでやろう」となったものです。

対象は同窓会名簿に掲載されている愛知、岐阜、三重、静岡、ついでに長野の各県在住の会員です。永井さんに総数 139 名に案内状を送っていただき、当日集まったのは 21 名でした。内訳は愛知 11、岐阜 3、三重 2、静岡 4、番外で大阪から 1 で、長野は 0 でした。年次的には卒後 30 年以上と卒後 15-20 年前後の同窓生が二峰性に多く、若手の参加が少なかった事が悔やまれます。

総会で私、高木が支部長に、永井氏が副支部長・事務局長に選任され、年一回の総会・懇親会を持つことが決定されました。

懇親会では和やかな雰囲気の中、各参加者の自己紹介と近況報告を行いました。また大阪からは一期生で篠懸会関西支部長の親友、東 強(あずまつとむ)君を迎え、関西支部の現況を語ってもらいました。

今回は長野県からの参加がなかったことで、当初「中部支部」としたかったところ、結果的に「東海支部」のようになりましたが、来年の集まり如何でどちらかの名称に落ち着く予定です。

同窓会の良さは同期だけでなく、世代を超えた出会い系の懇親が期待できることです。そのためにも来年からは若い世代に強く声をかけて、幅広く同窓生が集まる盛大な支部にしたいと考えています。

支部長 高木一平(昭和55年卒)



第2回 中部東海支部 記念講演会・懇親会

平成30年9月1日（土曜日）、第二回の篠懸会中部東海支部 記念講演会・懇親会を名古屋観光ホテルで開きました。

今年も愛知、岐阜、三重、静岡、長野の各県の会員に呼びかけた結果、参加者は21名で昨年とほぼ同人数でした。

第二回の目玉は今年退官された防衛医科大学校名誉教授 西田育弘先生（S55卒）の記念講演で演題名は「私はこう思う：宮崎医大を一期生として卒業し研究してきたこと」でした。長期的な血圧調節機構に関する素晴らしい研究成果を熱く語っていただき、参加者一同圧倒されて、講演中必死に血圧調節をしました。

懇親会は前副学長 美原 恒先生の乾杯の音頭に始まり、参加者の近況報告を聞き、お開きの言葉は前宮崎大学医学部附属病院院長 吉原博之先生(S55卒)でした。他にも関係のない他地区の一期生（井村尚樹先生、鈴木正泰先生）を数合わせて呼んだので会場は一気に平均年齢が上がり、あたかも「枯れ木も山の賑わい」の風情でした。ちなみに美原先生の長生きの秘訣は弟子の主宰する会に乱入して散々言いたいことを言って帰ることだそうです。なお、ありがたいことに関東地区の支部長、浦上信也先生（S59卒）が東京から駆けつけてくれました。この二年間、関東の会に出向いてこちらの会の宣伝をした甲斐がありました。

まだまだ暑い名古屋の夜は枯れ木を中心にさらに熱く更けていくのでした。来年はもっと若い人達を求めます。
（支部長 高木一平 S55卒）



第3回篠懸会 東海支部総会・講演会・懇親会

今年で3回目となる篠懸会東海支部の会合を令和元年8月31日(土曜日)に名古屋観光ホテルで開催しました。参加者は当初20名の予定でしたが急な欠席が2名あり、結局18名でした。

特別講演は吉原博幸先生 宮崎大学・京都大学名誉教授(S55卒)をお招きして、「医療の未来を支える千年カルテ—本格的EHRと医療データの二次利用—」というタイトルで、着々と進むEHRの全国展開について、困難を伴いながらも夢のあるスケールの大きなお話をしていただきました。

来賓として篠懸関東支部の「ボス」、浦上信也先生(S59卒)、関西篠懸会の「主」、東 強先生(S55卒)にもわざわざお出でいただき、我が東海支部を含めると名前だけはまるで裏社会の全国大会のようでした。

懇親会では恒例の参加者の近況報告がありましたが、中でも松波龍幸先生(S56卒)がわざわざこの日のために用意して提示された、入学以来の(一部恥ずかしい)写真集は、母校の身近な歴史が思い起こされ、大変懐かしく、感慨深く拝見したものです。こういう事があるので同窓会が止められなくなるのです。

来年も懲りずに開催しますのでより多くの参加をお願いいたします。

東海支部 支部長 高木一平 (S55卒)

